

7-2 地震予知研究計画にもとづく地磁気永年変化精密観測, 1980年4月～6月

Precise Observation of Geomagnetic Secular Variation under the Project of Earthquake Prediction Research, April-June, 1980

地震予知研究計画・地磁気研究グループ
Geomagnetic Research Group on Earthquake Prediction

当グループの総意により、1980年以後の観測結果の報告は気象庁地磁気観測所が担当することになった。その経緯と3月までの結果は既に報告されている¹⁾。今回は4月～6月の結果について報告する。

今回から、既設の12の永年変化精密観測点に、東京大学地震研究所地磁気移動班の3観測点：菅引（SGH）、河津（KWZ）および初島（HAT）並びに地磁気観測所の3観測点：松崎（MTZ）、御前崎（OMZ）および阿蘇山（AHK）の計6点を加えた18点の結果が報告される。55年4月分より、従来通りの00時40分～01時20分の10分毎の5個に加えて、男鹿、金華山を除き、00時40分～03時00分の10分毎15個の2通りについて、各測点の全磁力値とその柿岡値に対する差の毎日の平均、標準偏差が計算され、協力機関に配布されている。

第1図は柿岡に対する各測点の全磁力夜間値差（男鹿、金華山を除き15個平均）の変化を示す。下段に対応する時間の柿岡における全磁力およびK指数の変化を示す。地磁気活動度の高い期間に、主として磁気緯度の差による全磁力差が見られるが、全体として顕著な異常はない。僅かに、4月下旬以降、初島の柿岡に対する差に3nT程度の増加が、また5月上旬以降、鹿野山の柿岡に対する差に3nT程度の減少が見られる。

参 考 文 献

- 1) 地震予知研究計画・地磁気研究グループ：地震予知研究計画にもとづく地磁気永年変化精密観測，連絡会報，24（1980），279 - 281.

